

公益社団法人私立大学情報教育協会
平成 28 年度第 4 回大学情報システム研究委員会議事概要

- I. 日 時：平成 29 年 1 月 30 日(月) 13:30 から 15:30 まで
II. 場 所：私立大学情報教育協会事務局会議室
III. 参加者：岩井委員長、藤本委員、小川委員 (Skype)、ニッセイコム、富士通マーケティング
事務局：井端事務局長、野本

IV. 検討事項

前回検討した「e ポートフォリオシステム構築に伴う留意点の整理」と「e ポートフォリオシステム利用上の留意点」について検討した。また、「e ポートフォリオシステムの導入事例と課題の紹介」についても整理の方向性を検討した。なお、最終報告書は、平成 25 年からの報告を合本し、章立てなど編集することになっている。以下に整理メモを中心とした修正点を報告する。

1. 「e ポートフォリオシステム構築に伴う留意点」の再整理

- ・ 最小限必要な機能の導入部分の説明に、大学に共通すると考えられる三つの形態を提案する形で修正することにした。
- ・ 初年次用ポートフォリオの説明に、一週間の行動記録を自動転送する仕組みを追加することにした。
- ・ 学年別達成度 e ポートフォリオを実施する対象として、すべての科目を対象とするのではなく、全学必修科目、学生全員を対象としたゼミを追記することにした。
- ・ 科目別達成度 e ポートフォリオの説明に、Can-Do リストの説明を追加することにした。また、ディプロマポリシーとの関連性が明確になる仕組みを図式化することにした。
- ・ キャリア用 e ポートフォリオの説明に、学生に利用促進を働きかける工夫として、振り返りの習慣化、卒業生からの呼びかけ、利用のポイント化による成績への反映などを追加することにした。その際、見本の画面として掲載するものについては、大学の事例を掲載するのではなく、新たに画面を作成することにした。
- ・ 「e ポートフォリオシステム構築に伴う留意点」で取り扱う内容は、「e ポートフォリオシステムでとりあげるべき最小限必要な機能」、「e ポートフォリオシステムに求められる利便性」「e ポートフォリオデータの IR システムへの接続」としていたが、構成の内容を以下のように組み替えることにした。

1. e ポートフォリオシステムでとりあげるべき最小限必要な機能
 2. e ポートフォリオに求められる利便性
 3. e ポートフォリオシステム利用上の留意点
 4. e ポートフォリオデータの IR システムへの接続

2. 「e ポートフォリオシステム利用上の留意点」の再整理

- ・ (2) 学修行動モニタリングのシステム化は、①ワークシート提出状況の確認、②行動記録や学修達成度の内容確認のフィードバックについて、2 の「利便性」に移動してはどうかとの意見があった。

3. 「e ポートフォリオシステムの導入事例と課題の紹介」

- ・ 上記の 1 から 4 の構成に加えて、「5. e ポートフォリオシステムの導入事例と課題の紹介」とした。
- ・ 「独自開発」、「パッケージ利用」、「オープンソース利用」の 3 形態に沿って事例と課題を紹介することにした。3 形態の特長を中心に紹介した上で、導入にともなう責任の所在についてふれることにした。例えば、オープンソース利用では導入大学の責任、パッケージ利用では販売業者の責任、独自開発では請負業者の責任を説明する。その中で、製品の製造中止

や業者サービスの撤退など継続的な利用が確保できない場合が生じることについても言及することにした。

- ・ 事例については、予算規模、既存システムとの連携、専門家の有無、基本機能・代表画面、改善点、拡張性・発展性、運用管理体制、導入単位など、導入大学の中で3形態による代表的な大学を選定し、13大学にメールでアンケートを行うことにした。アンケート項目の検討はメールで2月中旬までに行うことにした。

V. 今後の検討の進め方について

次回は2月28日に開催することにした。

- ・ 岩井委員長が全体の見直しをすることにした。
- ・ 委員長と藤本委員二人で「キャリアポートフォリオの図」「Can-do リスト」を作成することにした。